

## 『学ぶと教えるの現象学研究』総目次

### 『学ぶと教えるの現象学研究 \*』(1987年)

はじめに

吉田章宏

1. 藤田幹夫 生成の世界における「待つこと」  
—「充実した生」をめぐるサンテジュベリの洞察を手がかりに—  
..... 1
2. 榎沢良彦 保育者が子どもを理解するということ  
—ある知恵遅れ児についての理解構造の解明—  
..... 16
3. 守屋 淳 対人関係を生きる身体をめぐって..... 49
4. 大沼 徹 フライ捕りの現象学—野球教授学へ向けての考察—  
..... 63
5. 鶴田清司 授業記録と教師の成長—武田常夫の場合を中心に—  
..... 85
6. 浅沼 茂 反省的思考と相互作用をめぐって  
—ジョン・デューイとアルフレッド・シュッツを超えるもの—  
..... 102
7. 中田基昭 授業と実存—本来的現存在をめざして—..... 121  
執筆者紹介..... 148

### 『学ぶと教えるの現象学研究 \*\*』(1989年)

はじめに

吉田章宏

1. 藤田幹夫 人間科学と意味発生論..... 1
2. 榎沢良彦 『保育者である』ことについて  
—保育実践に基づく、子共と保育者の相互性についての考察—  
..... 32
3. 藤田千鶴子 理解するということ  
—「障害児とのかかわりをめぐって—  
..... 51
4. 守屋 淳 他者と他者性の問題  
—エマニュエル・レヴィナスの他者論を手掛かりに—  
..... 68

5. 大沼 徹 世界に位置づいた感覚— 野球教授学へ向けての考察— 85

6. 斎藤 孝 身体調整における「構え」の教育 107

7. 生越 達 先行研究に基づく登校拒否児の現象学的研究の試み 123

8. 守屋 淳 研究ノート：人間の行為の時間性をめぐって  
— “American Psychologist” 誌での論争を手掛かりに— 149

執筆者紹介 161

『学ぶと教えるの現象学研究 \*\*\*』(1991年)

はじめに 吉田章宏

1. 榎沢良彦 保育実践における理解について  
— 解釈学的視座からの実践体験の考察— 1

2. 生越 達 能動的受動としての「受容」についての一考察  
— 登校拒否児研究を背景とし、ハイデガー、フーバーの思索を導きとして— 30

3. 斎藤 孝 息の現象学的研究のための試論 [1991] 72

4. 守屋 淳 他者・身体・対話  
— 対人関係の現象学をめざして— 153

執筆者紹介 176

『学ぶと教えるの現象学研究 四』(1992年)

はじめに 吉田章宏・中田基昭

〈原 著〉

1. 生越 達 《臨床家》であることと《臨床家》でないこと：  
— わたしーが研究することに定位して— 1

2. 遠藤 司 重症心身障害者ミキコの世界を理解する読み：  
「見る」ことに注目して 45

3. 馬場京子 ことば遊びと子どもの実存：  
メルロー＝ポンティの言語論に基づく一考察 67

4. 斎藤 孝 息と空気に関する教師の身体感覚 105

5. 榎沢良彦 保育における開在性について：  
実践体験に基づく、子どもと保育者の関わり合いの基盤についての考察 131

6. 小森健太郎 ニーチェの歴史観に基づく教師の生の解明：  
武田常夫の著作を手掛かりとして 159

〈翻 訳〉

7. Paul F. Colaizzi 原著 大沼良子訳 学習と実存 207

執筆者紹介 233

『学ぶと教えるの現象学研究 五』(1993年)

はじめに 吉田章宏・中田基昭

1. 生越 達 登校拒否を巡る予備的考察の試み 1

2. 遠藤 司 ある重症心身障害者の世界  
— 「新たな身体運動を獲得すること」に注目して— 37

3. 鷲尾善典 自閉症児の反響言語について  
— フッサーール現象学に基づく一考察— 71

4. 榎沢良彦 保育者へと生成すること  
— 実践体験に基づく、保育者の存在論— 89

5. 守屋 淳 教育学における実践と研究との関係をめぐる一つの試論 107

執筆者紹介 121

『学ぶと教えるの現象学研究 六』(1995年)

はじめに 吉田章宏

1. 遠藤 司 「世界へ立ち向かう身体」と「姿勢としての身体」：  
重障児との関わりを作るために「身体」の問題を考える 1

2. 田端健人 詩を教材とした斎藤喜博の二つの授業：  
ハイデッガーにおける表象と態度に基づく一考察 31

3. 打越さく良 「拒食症少女」に関する一考察 79

4. 藤川大祐 「見たこと作文」を通じての子どもの理解の可能性：  
世界に「住みついている」ことに関するメルロー＝ポンティの思索に学んで 101

5. 榎沢良彦 保育者としての自明性に生きること：  
実践体験に基づく、子どもと保育者の関わり方の考察 116

六号執筆者紹介 141

『学ぶと教えるの現象学研究』(\*より六まで)総目次 146

『学ぶと教えるの現象学研究』(※より六まで)全執筆者紹介……………150  
あとがき……………中田基昭

『学ぶと教えるの現象学研究 七』(1997年)

はじめに……………中田基昭

1. 遠藤 司 障害の重い子どもにおける空間の構成:  
方向の誕生に注目して……………1
2. 榎沢良彦 子どもにより生みられる幼稚園空間:  
空間体験の視座からの子どもの行為の解釈……………29
3. 生越 達 登校拒否児にとっての眼差しの意味について  
居場所解明のための予備的考察として……………45
4. 野中弘敏 デイクエア場面に見られる精神分裂病者の特異的症状に関する考察:  
木村敏の精神分裂病症状論を手がかりとして……………83

七号執筆者紹介……………99

『学ぶと教えるの現象学研究 八』(1999年)

はじめに……………中田基昭

1. ベルント・ヤーガー 自作農場から都市へ:  
(吉田草宏 訳) —教育の二つの基本概念—……………1
2. 榎沢良彦 行動空間としての幼稚園空間:  
—実践体験に基づく、子どもの空間体験の理解—……………35
3. 遠藤 司 重障児の生世界を解明する方法とその意義:  
—教育的関わりについての考察—……………55
4. 田端健人 「オペレッタの授業」における子どもの身体表現について:  
—或る教師の働きかけの豊かさを理解するために—……………89
5. 中田基昭 授業における身体の共同化……………111

八号執筆者紹介……………123

『学ぶと教えるの現象学研究』総目次……………127

『学ぶと教えるの現象学研究 九』(2002年)

はじめに……………中田基昭

1. 榎沢良彦 子どもの行動空間と保育者の存在意義  
—生きられる空間の視座からの子どもと保育者の体験の理解—……………1
2. 福田 学 外国語学習における発音と意味のつながりについて  
—メルロ＝ポンティの身体論を手がかりにして—……………19
3. 左近 崇 芸術活動における「真理の追究」……………45
4. 山口直子 合気道を学ぶということ  
—筆者自身の心と身体の変化を手がかりとして—……………67

九号執筆者紹介……………91

『学ぶと教えるの現象学研究』総目次……………95

『学ぶと教えるの現象学研究 十』(2004年)

はじめに……………中田基昭

1. 遠藤 司 世界の「根源」に関する一考察  
—重障児との関わりを豊かなものとするために—……………1
2. 深山 茜 乳児の他者意識と他者関係の変容に関する事例研究  
—メルロ＝ポンティの思索を手がかりに—……………17
3. 加藤誠之 非行を卒業するとき  
—少年にとつて「大人になること」の意味—……………43
4. 速藤野ゆり 或る自立援助ホームにおける一少女の意識の変化  
—サルトルに基づく「他者関係」の解明—……………57
5. 河上輝子 或る失語症者との対話を支える言葉の在り方  
—言語論に関するメルロ＝ポンティの記述を手がかりとして—……………93
6. 田端健人 山本鼎にとつての「よく見て描く」こと  
—知覚についてのメルロ＝ポンティの記述を手がかりとして—……………129

十号執筆者紹介……………143

『学ぶと教えるの現象学研究』総目次……………149

はじめに

中田基昭

1. 田端健人 他者へと開かれる子どもの身体  
— フツサルによる他者知覚と身体の解明を導きとして— …… 1
  2. 大塚 類 児童養護施設で暮らす子ども他者経験の変化  
— 相互主観性理論に基づく意識の解明— …… 27
  3. 榎沢良彦 「共に生きる」における子どもと保育者の在り方 …… 65
  4. 福田 学 映画を教材とした外国語の授業における言葉の理解  
— メルロー＝ポンティイの言語論に基づく事例研究— …… 83
  5. 遠藤野ゆり 被虐待経験をもつ或る少年にとつての他者経験の変化  
— サルトル『存在と無』における「対自」と「対他」論に基づいて— …… 105
  6. 中田基昭 サルトル『存在と無』に基づく人間研究の意義  
— 己の存在において苦悩する人間への視座を求めて— …… 145
- 十一号執筆者紹介 …… 185  
『学ぶと教えるの現象学研究』総目次 …… 191

はじめに

中田基昭

1. 田端健人 学級づくりによる子ども集団の成長  
— 根本気分についてのハイデッガーの思索を導きとした事例研究— …… 1
  2. 大塚 類 気分における自己と世界との開示  
— 他者経験と他者理解の豊かな解明を目指して— …… 27
  3. 福田 学 授業における知覚的な事実と科学的な事実  
— 「隠喩」についてのデリダの記述に基づく一考察— …… 51
  4. 遠藤 司 授業者の成長に関する一考察  
— ある教育実習生の模擬授業を通して— …… 63
  5. 遠藤野ゆり ブーバーにおけるソレの世界の豊かさについて …… 75
  6. 小林祥子 競技ダンスにおける踊り手間の身体的調和  
— メルロー＝ポンティイの身体論に基づく筆者自身の事例研究— …… 97
  7. 古山佳澄 クラスの中で育つ子どもたちの「思い遣り」の心  
— シェラーを導きとして— …… 133
- 十二号執筆者紹介 …… 161  
『学ぶと教えるの現象学研究』総目次 …… 167

はじめに

中田基昭

1. 遠藤野ゆり 教師の子ども理解の豊かさとして— …… 1  
— 武田常夫の授業実践の現象学的解明— …… 1
  2. 田端健人 武田常夫の或る授業における教師と子どもの「対決」  
— ハイデッガーの芸術論を導きとして— …… 27
  3. 大塚 類 「謝らない」子どもの在り方からみえてくること  
— 過去を引き受けることに関するサルトルの記述を手がかりとして— …… 63
  4. 平石晃樹 身体であることと自己であること  
— 初期レヴィナスにもとづく一考察— …… 77
  5. 福田 学 英語教育に関わる言語理論と先行研究の再解釈  
— メルロー＝ポンティイの現象学に基づく英語教育研究の意義— …… 101
- おわりに  
十三号執筆者紹介 …… 143  
『学ぶと教えるの現象学研究』総目次 …… 149

# 学ぶと教えるの現象学研究

## 十四

2011年2月

はじめに	.....(田端健人)
福田学	「荒れた」クラスにおける問題行動をおこさない生徒たちへの関わりについて —メルロ＝ポンティの他者論を導きとした「荒れの中心」の捉え直し— ..... 1
大塚類	道徳教育における子どもの自己理解と他者理解 —ロール・プレイングを用いた授業に着目して— ..... 7
遠藤司	「書く」ことに関する一考察 —「筆触」から「言葉」に至る過程を生きることの意味— ..... 15
田端健人	通常学級に在籍する「特別な配慮を要する子ども」の世界疎外 —ハイデガーによる子どもの現存在論を導きとして— ..... 31
生越達	リストカットに隠された「同調」への抵抗 —「存在の不安」の分析をとおして— ..... 45
遠藤野ゆり	電話相談でのボランティアの対話経験についての考察 —非制御性に関する現象学的対話論を導きとして— ..... 55
中田基昭	相互主観性理論における自他の癒合と子どもの癒合的社会性について ..... 65
山崎瑛	対話における他者の根源性 —ヴァルデンフェルスによる異他経験の現象学— ..... 81
吉田章宏	著作物(2001～2010)一覧 ..... 121
執筆者紹介	..... 125

宮城教育大学学校教育講座

教育学研究室